

第3回 白山高等学校活性化協議会 概要

令和2年2月21日(金) 18:00～

白山高等学校 会議室

【欠席】 青山委員 山下委員 【遅刻】 寺井委員 中村委員

1 挨拶

校長 三重県の策定した県立高等学校再編計画に基づき、学校の活性化に向けて、基礎学力の向上、地域との連携の推進、広報活動の推進、部活動の活性化という4本の柱を設けて取り組んできた。今年は3年計画の最終年、これまで10回の協議会を開催してきた。本日は活性化プランマネジメントシートに基づき取組を説明し、課題の整理をし、何ができ、何ができなかったのか、これからどのように取り組んでいけばよいのか、ご意見をうかがいたい。

2 報告事項

(1) 第2回白山高等学校学校活性化協議会について 【資料1】に基づいて説明

昨年度との変更点としては、「地域に開かれた学校づくり」について、津市からの要望の時期に合わせてできるよう、JRへの要望等を第2回活性化協議会でとりまとめた。委員からの意見では、生徒の授業満足度86.1%を評価する意見、中華料理店のメニュー作成の取組を評価する意見、フライングディスク競技のポスター作成にもつながった。また、新聞報道等が津市の地域に偏ってしまい、松阪の方にも届くようにすればより効果的という意見もあり、今後生かしていくという話になった。

3 協議事項

(1) 令和元年度 活性化プランに基づく進捗状況について 【資料2】に基づいて説明

- ①「授業改善」の具体的取組…生徒の授業満足度86.1% (成果指標80%以上)
- ②「地域と連携した学び」…長期インターンシップ新規受入事業所2件 (成果指標3件以上)
- ③「部活動の活性化」…72.3%
- ④「地域に開かれた学校づくり」…まだ後期入試を行っていない。

【質問・意見および回答】

- ・①について、カリキュラムの改善について取り組んでいるが、学力の向上とどうつながったのか。
→ カリキュラムを改善して2年、来年度3年生において社会に役立つ内容が増える。7月から12月にかけての学力の向上とのつながりは不明。
- ・②について、インターンシップでの体験と近いところで就職しているか。
→ 本校の生徒の多くは製造業希望。2年のインターンシップでは、実際に体験する以前の段階で安全面での研修だけで終わってしまうなど製造業でのインターンシップの受入は難しい状況がある。従って関連は高くない。ただし、インターンシップでの挨拶や時間を守るといったことを学校の先生や保護者以外の方から指導していただけるという点があり、役立っているとは言える。

→ 実際の受け入れ先と生徒の就職希望とはズレがあるというのが実態。また、3年生では学校から行くという点で制約があり、それがズレの原因となる。しかし、学ぶことがあり、取り組んでいる。

- ・インターンシップの受入事業所については2件のみ。情報提供を求めている。
- ・③について、白山高校が甲子園に出場したことで、他校の野球部の活動が活性化していることもよく聞く。生徒の活動が生徒の活動に影響を与えているのは胸を張っていい活性化ではないか。強い部活に一極集中するのではなく、他の部活によい影響を与えているのは好ましい状況ではないか。

→ 部活動については本校の場合女子の部活の活性化が課題になる。また、部活動の活性化がさらに進むと名松線の帰りの混雑が心配になる。

- ・④について、活動指標の2番目について、授業公開の参加者（中学校教職員、中学生・保護者）から具体的にどんな意見があったのか。

→（美杉中）基礎から教えてもらっている、学びなおしたいというのものもあるし、地域に開かれた学校ということでブラスアンサンブル部としてかわりがあることで、つながりから学びなおしたいなどという意見がある。

→（白山高校は）丁寧にやってくれるよな、丁寧にやってくれているという意見が松阪地区の会議の中で出ていた。

→（学校運営協議会概要から）教室後ろの整頓状況が去年より改善している、生徒がぎっしりいて狭く感じたところがあった、寝ている子がいたが指導が難しい、選択教室でわからない子に先生が徹底的に教えていたことに共感、試験注意の6項目がとてもよくわかった、パソコンについては非常に難しい内容で生徒同士が協力して行っていた、1年生は例年集中が切れていることが多いが今年は違ったので変わってきたという印象、授業のユニバーサル化を感じたがこれ以上は難しいのではないかと、タブレットの導入のこと空調設備のことなどの意見も出ていた。

→（10月説明会での保護者・教職員アンケートでは）授業に真剣に、楽しそうに受けていたという意見もあれば、私語をしたりまじめに受けていない、退屈そうに受けているという意見もあった。

- ・④の「登下校における環境改善」について。 澤井委員【別紙綴り】

JRへの要望についてはJRからはハード面の整備はできない。コミュニティバスは現状は維持、プラスα部分は今後検討する。加えて廃止代替のバスとして榊原温泉口から榊原車庫前までの区間は朝夕のみ運行したい。

- ・久居西中の校区からは利用しやすくありがたいことだ。

→ どうしても予算の制約はあるが。

(2) 入学志願者の推移と課題整理について 【資料3、4】に基づいて説明

「活性化プラン」に基づく課題についてはほぼ達成できている、または進展しており、生徒の頑張りが地域や保護者にも理解され生徒全体の様子は変化してきているが、志願者の増加にはつながっていないという現状である。

- ・頑張れば報われるというふうに言われていると思うが、生徒が減少しており、学校を活性化したところで志願者増にはつながらない構造的な問題がそもそも存

在する。活性化した、けれども志願者の増加につながらないことを、もっと頑張れというのではなく、冷静に少ない志願者の中で学校がうまく回る、今のような状態があるべき姿なのではないか。この地域（津市・松阪市）の少子化の現状を踏まえると、活性化しろ活性化しろではだめなのではないか。

- 来年度さらに、津・松阪地区で200名以上の減少が見込まれる。小規模な学校が増えていく中でその活性化が求められる一方、子ども自身の学び・成長を保障していくためには一定の規模も必要ではないかという意見も出ている。
- 白山高校で学んでよかったという状況は作っていかねばならないということは変わらない。少人数だからこそできることを、また地域との関わりを大切にしていけることも大切であることはぶれがない。
- この4月から高校生の授業料の補助が国から増えるということで、大量の生徒が私立高校に流れている。松阪地区が特に三重高校への進学が増える、また鈴鹿高校への受験が増大した。また、全国レベルの通信制の学校が出てきて、進路の幅が広がった（白山中で80名の生徒の進路先が30通りほどになっている）。
 - ・ 私立の定員は教育委員会が決められているのか。定員減は私立と公立で同じ程度の比率なのか。
- 定員を県が決めることはできない。それぞれ魅力化をはかりつつお互い協議を行って決めている。県立高校の方が若干多く減っている状況。三重県は公立75%程度。全国では7割3割で公立。
 - ・ 少子化の状況の中、志願状況の推移は激減しているという印象はない。今ここでの頑張りを継続して続けていくことが3年後4年後につながっていく。県立高校の活躍が美談になる。今やっている活性化の活動を継続してやっていくことが重要ではないか。
 - ・ 白山高校の丁寧な指導、少人数などの行き届いた教育が続いていること、テスト勉強などのし方なども丁寧に指導していただいている。特別な支援が必要な生徒もいきいきとやっているという実績もある。これからも引き続き、どんな子も生き生きできる、そんな学校であってほしいと思う。

(3) その他

- ・ 「学校活性化協議会」と「学校運営協議会」の目指すところは同じ。活性化協議会は方向性を示す舵取りで運営協議会は実際の運営に関わるエンジンの役割と考えられる。より活性化するために両者の分業の見直しが必要ではないか。部分的には一緒に行うことも考えていいのではないか。
- 活性化の取組は必要。メンバーが多く重なっているので、兼ねて実施していく方向で検討する。
- 他校にもやっている状況がある。学校運営協議会の中に活性化協議会を位置づけるようなやり方も考えられる。

4 連絡事項

- ・ 活性化協議会は3年10回の会議を持ったが、今回で一区切りとなる。今後の持ち方、方向などについてはこれから検討する。